



Campus News Rikkyo Niiza

ホームページアドレス <http://niiza.rikkyo.ac.jp>

<No.75>

特集 立教新座で考えるキャリア教育

「生徒一人ひとりが自分の希望する分野に進学すること」が本校の進路指導の大きな柱です。生徒たちは、中学校・高等学校での様々な学習・経験から自分の興味・関心のある進路を探っていきます。今回は本校のキャリア教育の一端をご紹介します。

高校1学年より

キャリアとは？…「キャリア教育」のキャリア (career) とはどのような意味でしょう。キャリアと聞くと「仕事」を思い浮かべると思いますが、「仕事」だとむしろworkの方をよく目にするかもしれません。careerの語源はラテン語の carrus、英語の car と同じもので「荷車」を表すことばです。ここから派生して、「車道」「轍」などの意味になり、英語に

取り入れられた際に「走路」となったのです。言い換えれば「人生の行路 (=生涯、経歴)」ということになります。単に「仕事、職業」という意味ではなく、「生涯に渡る職業」という意味でcareerは使われます。高校・大学を出て、就職して、そこからまた歩いていくという長期的な見通しを考えると、careerという言葉がふさわしいのだと思います。



1 限目	事前学習・ガイダンス	キャリア教育の目的をふまえ、班でどのように講話内容を共有するか考える。
2 限目	OB講話①	各生徒2名のOB講話を聞き、「働くこと」について考える。また、本校での生活がどのように影響をしたのかを知る。
3 限目	OB講話②	
4 限目	振り返り	班で聞いた講話内容を共有し、考えを深める。
5 限目	立教大学説明会	立教大学の概要を知り、学部学科について知見を深める。

高校生は自分の将来について考え始める時期です。しかし、何の手がかりもなく将来について考えるというのは非常に難しいことです。そこで、生徒に自分自身の人生の道を考えてもらう機会として、高1学年では5月18日に2つの企画を用意しました。

午前は、どのような職業があるかを知り、実際にその職業で活躍している先輩方から話を聞き、将来の方向性、また、大学の学部や学科の決定につなげてもらうことを目的とした『OB講話会』です。

立教新座高校(立教高校)の卒業生17名を招いて、講話をしていただきました。本校の卒業生ということで、単に職業の話だけではなく、学生生活においてどのような経験をしたのか、そしてその経験が今現在どのように活かしているのかというOBのキャリア形成の過程を聞くことができる点で、生徒にとっては非常に有意義な時間であったと言えます。講話を聞いて各クラスに戻ったあとは、班で講話内容を共有し、多種多様な職業・経験に触れ、印象に残ったことを共有し発表しました。

午後は、本校生徒の多数が進学する立教大学について、学部や学科の構成や、他大学との比較、そこで活躍している学生達の姿などをよく理解し、生徒一人一人の希望する将来の実現に向けて、最適な進路の選択に役立ててもらうため、『立教大学説明会』を企画しました。

大学の学部・学科選択は将来に大きく関わるものです。OB講話会で職業に対しての知見を深め、そこから自分の興味のある職業に就くにはどのような学部・学科選択がよいのかをこの時期に考えることで、高校3年間の過ごし方が変わってきます。近い将来、「これが自分のキャリア」と言えるような、一生を通じて続けられる仕事に出会えることを切に願います。

高校1学年担任 英語科 石川 宣明

来校いただいたOBの職種

総合電機
IT・システム
料理研究家
イメージスタイリスト
保険会社 (保険引受人)
公認会計士・税理士
脚本家
弁護士
総合エネルギー
ベンチャー
IT・通信
国家公務員
地方公務員
家電量販
IT
弁護士
建設・設備

生徒は事前に配布されたOBのプロフィール一覧をもとに、話を聞いてみたい講座を選び、各自お二人の講師の講話を受講しました。OBのプロフィールから一部抜粋してご紹介します。(卒年は高校卒業の年です。)

◆総合電機 1994年卒

2つの会社で計15年間、「世界中から必要なものは何でも買う」仕事を(日・米・英で)経験したあと、アジア地域の新規顧客開拓・展開戦略策定などを手がける現在の仕事に「転職」しました。帰国生でもなく、留学経験もない私がなぜ「国際派ジャパニーズサラリーマン」になれたのか? 立教での生活が私にそのチャンスを与えました。

◆IT 2002年卒

多くの人にインターネットを安心・安全に使ってもらうための対策や、情報発信を担当しています。例えば、検索エンジン上で悪質なサイトが出ないための取り組みや、中高生にスマートフォンを安全に使ってもらうための企画などに関わっています。仕事以外では、平日の夜と土曜日で通える大学院に行っています。普段の仕事とは全く違う視点から新しい知識を得たり、いろんな仕事をしている人と一緒にディスカッションしたりするのは楽しいです。

◆弁護士 1999年卒

中小企業の業務の中で発生する法律問題に関する業務、市民の方の日常生活上の法律問題に関する業務、遺産相続等の家庭内の法律問題に関する業務、国選弁護等の刑事事件に関する業務等を中心に取り扱っている、いわゆる「町弁」です。

◆国家公務員 1996年卒

地方創生・地域活性化のため、創業や新事業展開を行う民間事業者に対する補助金の交付(説明会の資料作成、申請書の審査、有識者審査会の開催、省内幹部説明・決裁、報道発表)等が主な業務内容です。仕事に関連して現在興味があることは、人口減少社会(人口推計・消滅自治体)、地方創生・地域活性化、エネルギー問題(再生可能エネルギーの普及施策)、クラウド・ファンディングなどです。

生徒の感想から(抜粋)

「高校では後悔しないように計画的に行動するべきである。時間をフル活用し、全てのことに全力で動くことが大切だ」という言葉が印象に残った。入学して1ヶ月たち、無計画に行動している場面が多々あったため、後々後悔しないようにするためには、先を見通して行動することが大切であると改めて気づかされた。また、失敗はしてもよいが、そのあとが大切であり、チャンスはしっかりモノにすることが重要であるという言葉も印象に残った。

勤務していらっしゃる会社が自由だということがとても印象に残った。自由である理由は最大限のパフォーマンスを発揮するためだと言っていた。「自由」という点では立教新座も似ているので、勉強でも部活動でも自分なりの最大限のパフォーマンスをしていきたい。

税金の知識を駆使し、中小企業や個人にアドバイスなどをしていることで、お話の中で2点心に残ったことがあった。1つ目は努力は報われるが、やみくもな努力はしていけない、失敗から学び取れということ。2つ目は人を幸せにしようとする気持ちを持つこと。これら2点は仕事をする上で最も基礎的であり、かつ最も大切にすべきであると思った。

あまり会社の雰囲気や文化について考えたことはなかったが、やはり長い間働くところだし、文化や雰囲気は大事だと感じた。もし、特定の企業について興味を持ったら、実際に会って話を聞いた方がよいというのは、確かに重要だと思った。「自分が思うところがあれば徹底的に行い、没頭しろ」という言葉も重要だと思った。

脚本家は面白いと思った。「思い込みが世界を変える」という言葉をきき、世界は変わるかどうかかわからないが、人生は変えることができると思った。好きなことで生きていくことは簡単ではないが、成功したらよいと思い、自分も好きなことを見つけようと思った。

プログラムを振り返って…

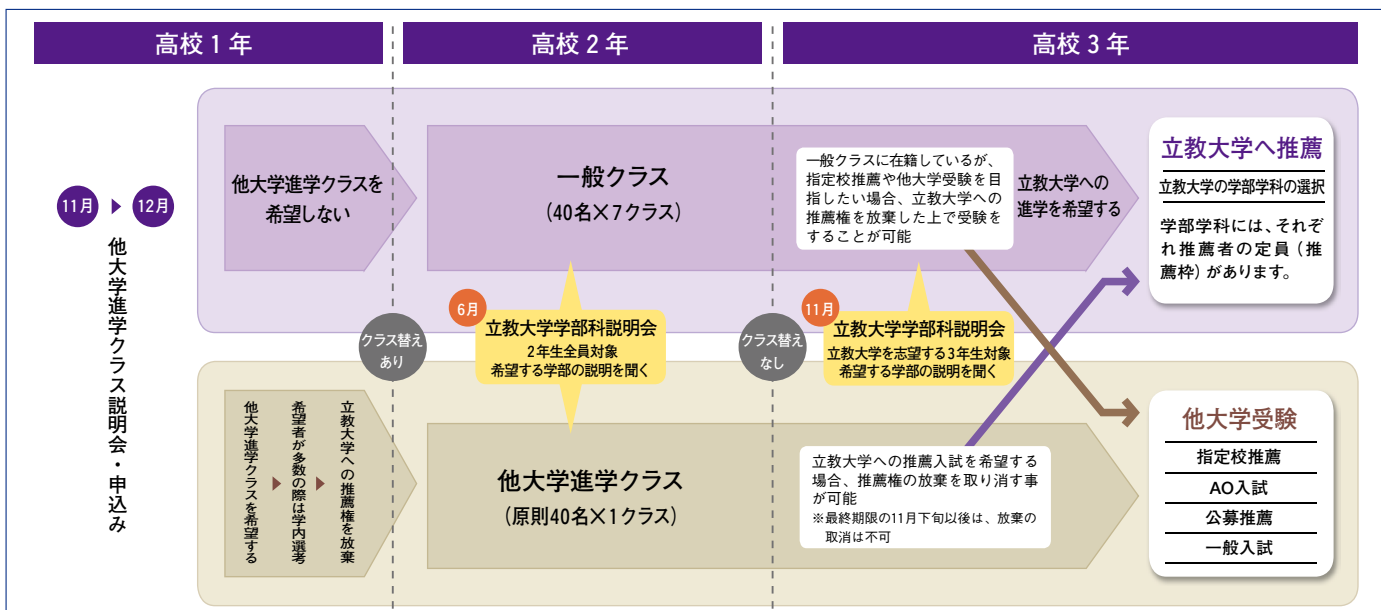
今回のキャリア教育を楽しみにしていた生徒は、とても多かったようです。高校1年生にとってはまだ入学後の間もない時期であり、高校3年間の生活や、そのあとに続く将来への展望についても、容易に向き合える時期だったと思います。その意味で今回のOB講話会は、漠然としたイメージの中にある将来の自分の姿を、実際に職業の現場で活躍しているOBの方々と重ねてみることで、とても良い機会となりました。職種や年齢なども程よく分散していたため、多くの生徒の幅広い興味に対応できました。教室に戻り班ごとに机を向かい合わせ、互いに聞いてきた話を伝え合って情報を共有するという作業も、大いに盛り上がっていました。ご協力下さったOBの方々が、各々の職場で、家庭や個人の生活で、立派に生活をなさっている様子がうかがえました。生徒達には良いロールモデルを提示することができたと考えられます。

午後の立教大学説明会では、たくさんのスライドを用いて、建学の精神をはじめ、学部や学科、教育の仕組みを、大学の担当職員に説明していただきました。この説明自体がとても有意義な時間ではありましたが、個人的には、資料として配付された立教大学の最新パンフレットに、かつて担任をした生徒(本校OB)のインタビューの記事が写真付きでいくつか掲載されており、彼らの活躍もまたとても嬉しいものでした。

高校1学年 学年主任 成塚 章二



高校～大学 進路決定まで



高校 2 学年より

高校 2 年生になると、大学進学を考える生徒は「大学で何を学ぶか」をそろそろ考え始めます。本校では高校 2 年生の 6 月に立教大学の学部学科説明会があり、生徒は自分の興味関心がどの分野にあるのかを、少しずつ考え始めます。立教大学に進学する場合も、どこの学部を選ぶのかは大きな悩みでしょう。大学の総合案内パンフレットには、高校では出会ったことのない社会学や経営学、コミュニティ福祉など、聞き慣れない言葉が並びます。英語を第一言語として学ぶ少人数制の*GLAPや、異文化コミュニケーション学部の*DLPなど、最近の大学での学びは多様です。施設見学会もあり

ますので、興味があれば、とにかく聞いてみることに。学部学科説明会は興味関心のある全ての学部の説明に参加できるよう、2日間にわたり、時間をずらして実施されています。今年度は6月10日(土)と24日(土)の放課後に実施され、高校 2 年生が延べ658人参加しました。例年は高校 2 年生の学部学科説明会が大学へ進路指導の第一弾でしたが、昨年度は、高校 1 年生にも大学の総合案内を実施しました。高校までの学びと大学での学びは大きく異なります。学びの内容も多様で、学部学科にとらわれずに学べる機会も多くあります。単に「大学に進学する」ではなく、どのような大学生活を送り、その先にはどのようなキャリアパスがあるのかと

いうように、大学生になった自分のイメージをより具体的に描く形で進路をイメージして欲しいと思い、学校では様々な取り組みを行っています。

高校 2 学年 荒井 雅子

*GLAPとは、立教大学入学時から所属するコースの名称で、原則英語のみで学位の取得ができます。2年次秋学期から1年間海外の協定校に留学することや、その留学先での寮生活を視野に入れて、それまでの間は留学生と一緒に寮生活をする(全寮制)など様々な特長があります。

*DLP (Dual Language Pathway) とは、日本語で思考する力に加え、国際語である英語で発信する力を身につけるため、英語と日本語の科目を履修できるコースのことです。日本語専門科目の他、DLP専門科目は英語で学び、2年次には協定大学への1年間の長期留学を目指します。卒論も英語で作成します。

進路指導より

例年、学年の15%程度がセンター試験を受験し、20%程度が他大学へ進学しています。他大学へ進学を考える場合は、立教大学への推薦権を放棄する必要があります。生徒が推薦権を放棄してまで他大学を選択する理由として2点考えられます。1点目は、工学部や医学部など立教大学に存在しない学部の内容を大学で学びたいと考えているためです。

最近、医学部の指定校推薦や一般(公募)推薦の応募が目立ち、今春の入試では現役で筑波大学や北里大学の医学部に合格した生徒がいます。また、工学部においては東大、東工大、早稲田大、慶應義塾大、東京理科大などへ

の進学を決めた生徒が毎年一定の割合で存在しています。

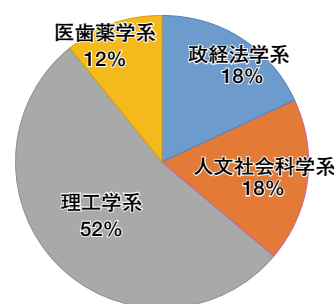
2点目は、自分が学びたい学部の領域に強い大学へ進学したいと考えているためです。例えば、一橋の社会学部や早稲田の政治経済学部など、その大学の看板学部と言われる学部は特色のあるカリキュラムやゼミなどを展開し、他大学では経験できないことを特色にしています。実際に受験した生徒に聞くと、そのような環境下で大学生活を過ごしたいという意識の強さが表れていました。

自分で考えて道を切り開くプロセスこそ将来のイメージを明確化するのに大切なことです。したがって、一貫連携だから必ず立教大学を推すというわ

けではなく、生徒 1 人 1 人の希望に応じて最適な進路を今後も一緒に考えていきたいと思っています。

進路指導担当 齊藤 太郎

2017年春 他大学進学者の分野別内訳



キャリア支援に関する立教大学の取り組み

キャリアセンターが実施している「キャリア支援プログラム」では、「社会を知る講座」や「OB・OG訪問会」「スタディツアー」などの各種プログラムやインターンシップを通じて、大学1年次の早い時期から「自分を知る」「社会を知る」ことを循環しながら段階的に進路意識を高めていきます。生きることや働くことについての理解を深め、視野を広げながら、社会や企業を見る目を養い、自らの力で卒業後の進路選択ができるよう促します。

特に1・2年次生を対象とした「スタディツアー」では、社会や社会人との接点を持ち、企業訪問や企業でのプログラムを体験する中で、社会の仕組みや仕事、働くことに対する理解を深めます。2016年度は17社のご協力をいただき、延べ467名の学生が参加、仕事の実際や社会人としての考え方などを体感しています。

また、全学年を対象とした「社会を知る講座」では、業界の構造を知る“業界編”と、グローバルビジネスのプロジェクトに携わった企業事例を学ぶ“プロジェクトストーリー編”、さまざまな職種の仕事内容や働き方などを知る“仕事内容・働き方編”の3編を受講することで、自身の進路選択に役立てます。

これらのプログラムは、就職活動に向けたノウハウをつかむためのものではなく、自身のキャリアについて考える力、企業を見極める力や将来の可能性を切り拓く行動力など、いわば人間力、社会人を育てるための支援を行うものです。学生一人一人と向き合い、学生自身の“力”を育むサポートを行いながら、それぞれに適した進路へと導くことで、それが結果的に、立教の総合的な“就職力”となって、高い実績に結びついているのです。

立教学院NEWS vol. 25より抜粋

キャンパストピックス

教育実習生母校に帰る



立教大学 理学部 数学科 小林 竜也さん

私は、2014年に立教新座高等学校を卒業しました。私が高校生のときはちょうど高校校舎と体育館の建て替えの時期に当たっていました。そのため、今の校舎の中を歩くのは今回初めてとなり、新鮮な感覚がしました。しかし、生徒一人一人が伸び伸びと生活できる環境は全く変わっていないと感じ、同時にとても懐かしく感じました。

私はこの学校の豊富な知識や経験を持つ先生方から多くのことを学びました。そして高校時代の生活がきっかけで、教師という職業に憧れを持ち目指すようになりました。その意志は大学入学以後も変わらず、今回母校である立教新座の教育実習に行くことを決意しました。

いざ実習が始まってみると、教師の苦悩を感じる日々が続きました。特に「教える」ということの難しさを改めて実感しました。しかし、この実習を通じて、教師のやりがいや生きがいを感じる貴重な経験をすることができました。また、この学校で教わった先生方の偉大さを再度認識することができました。今回の経験を今後のキャリアに生かしたいと思います。

立教新座で過ごした日々の生活が私のように将来の職業選択につながると信じていますので、現在の中学生や高校生には、この恵まれた環境を大いに活用して欲しいと思います。

最後になりますが、実習に関わってくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



中央大学 法学部 国際企業関係法学科 梅川 祥之さん

私は中高6年間を立教新座で過ごし、母校へ帰ってまいりました。実習では中学2年生と高校3年生のクラスを担当させていただき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

思い返せば、立教新座での経験はその後の私の人生に大きな影響を与えています。授業で取り上げられたニュースが進路を考えるきっかけになり、部活動でのポスター作成の経験が大学における機関誌の制作へとつながりました。今回、実習生として生徒の集団に接するにあたっては、文化祭において務めた団体責任者の経験が活かされました。

在校生の皆さんには、立教新座で過ごす中で「心」が動くさまざまな経験をしてほしいと思います。部活動や学校行事に全力で取り組み、困難と向き合う時間は、すぐには報われないかもしれませんが、必ず役に立つ日が来ます。そして、つい当たり前のように感じてしまいがちですが、立教新座という環境は非常に恵まれています。実習期間内に多くの先生方の授業を見学させていただきましたが、どの授業も専門性や工夫、個性に溢れています。この恵まれた環境をフル活用して「心」動く充実した日々を過ごしてください。

最後になりましたが、実習に関わってくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

セント・ポールズ・スクール(アメリカ合衆国)と姉妹校に

今年度より、オーストラリアのブライトン・グラマー・スクールに加え、アメリカ合衆国のセント・ポールズ・スクールと姉妹校協定を結ぶことになりました。

セント・ポールズ・スクールは1849年創立の本校と同じキリスト教の学校です。アメリカ東部のメリーランド州、ボルチモア郊外に広大で自然豊かな敷地を持ち、小学校は共学、中学校・高等学校はそれぞれ男子校と女子校に別れて学んでいます。日本語学習は小学校から選択することができるため、合計12年間日本語に触れることが可能な環境にあります。

このセント・ポールズ・スクールから6月に5名の高校生が2週間、本校に短期留学に来ました。留学生は本校生徒宅にてホームステイをしながら生活し、本校生徒とともに様々な授業を受けました。また1日立教小学校を訪問し、給食も味わうことができました。

学校教育の場において、異文化に触れる機会を設けることはこの国際化社会において大変大切なことです。今回の短期留学を通じて彼らが出会った本校生徒は、提供する側としてだけではなく、吸収するチャンスも与えられたと感じています。

留学生が体験した授業・部活動

高校1年	バディ（世話役の生徒）との通常授業 芸術：工芸 体育：水泳
高校3年	体育：剣道 自由選択授業：書道表現演習・英語でde化学・食物学・解剖（初級）・日本の伝統手芸
部活動	バスケットボール部・テニス部・陸上部・サッカー部・柔道部

1年間留学学校派遣制度

セント・ポールズ・スクールとの姉妹校協定により、ブライトン・グラマー・スクール同様に本校から1名、1年間の学校派遣留学生を送り出すことになりました。募集、選考は高校1年次に行い、留学は高校2年次の2学期からとなります。詳細につきましては入学時に配布された「学校生活のしおり」を参照してください。

留学担当 英語科 横山 祐子



クラブ活動 高校剣道部

インターハイへ向けて

6月3日に行なわれた、第64回学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会県予選会男子個人戦で、私と渡部は1、2位でインターハイへの出場権を手に入れることができました。

私は昨年インターハイに出場しましたが、1回戦で負けてしまいました。その時に白石監督、渡部と私の3人で「来年も絶対にこの舞台に来るぞ!」と言って一年間稽古をしてきました。予選会でインターハイ出場を決めた時はすごく嬉しかったです。しかし、団体戦決勝戦では、私が代表戦で負けてしまい、インターハイには出場することができません。個人・団体の両方で出場する、という結果にはなりませんでした。

私たち3年生にとっては最後のインターハイです。出場できなかった同級生、後輩、いつも応援してくれている保護者や先輩方には感謝しています。宮城では自分の高校剣道の集大成となるよう思いっきり試合をしてきます。

剣道部主将 高校3年 中嶋 将太



県大会団体戦決勝をおえて

本校剣道部の顧問である原義克教諭が、10月に愛媛県で開催される第72回国民体育大会に、剣道（成年男子の部）埼玉県代表チームの監督兼大将として出場します。原教諭は剣道の最高段位である八段を持ち、本校の剣道部を30年以上に渡り指導しています。

大阪大学

国際公共政策コンファレンスに本校から6名が参加!

4月22日と23日に大阪大学で行われた第3回国際公共政策コンファレンスに、本校から2組のグループが出場しました。高校3年生の井口卓磨君と野口桂佑君は「プレア・ヴィヘア寺院を取り囲む地域をモデルとする観光地開発案」について、高校3年の横塚康平君、高校2年の神山洋君、平野聖也君、大井川豪君は「福島第一原発による風評被害をなくすには」について、それぞれ研究報告を行いました。

社会科 荒井 雅子



チャペルだより

「七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。」

申命記 5章14節

1学期が無事に終了し、夏休みに入ります。少しホッとしませんか？人は仕事がないと落ち込んだり、生きる力を失ったりしますが、休みがなければ同じように心が疲れ果ててしまいます。昔は、多くの文化圏で、農民など一般の人々は休むことがほとんどありませんでした。特に、借金をしていた人や奴隷であった人は、ほぼ休むことなく、年がら年中働いていました。しかし、古くからあるモーセの律法の十戒には、冒頭の安息日についての言葉が四番目の命令として含まれています。仕事や勉強を一生懸命することはよく聞きますが、休みをとることは今の社

会でも十分にはなされていないかもしれません。モーセの律法では六日間働いて一日休むことが命じられていました。その上、他の祝日も多々ありました。私たちもきちんと休み時間をとることによって仕事の能率もあがります。しかし、キリスト教の観点から見ると仕事の能率よりもっと大事なことがあります。我々人間は、本来、生活そして仕事そのものも楽しむ者として神様に創造されました。神様は、創世記の最初でアダムを創造した時、彼に仕事、つまりエデンの園を耕して守る仕事を与えました（創世記2章15節）。そしてこの仕事は彼ら人間にとって楽しいことではあつたはずです。辛いことではありませんでした。しかし、人間が罪を犯したことによって仕事が辛いものとなったのです。罪を犯したアダムに対して神は次のように言われました。「お前は女の声に従い、取って食べるなど命じた木から食べた。お前の

ゆえに、土は呪われるものとなった。お前には、生涯食べ物を得ようと苦しむ。お前に対して、土は茨とあざみを生えいでさせる。お前は顔に汗を流してパンを得る。土に返るときまで。」（創世記3章17～19節）今の時代も仕事を楽しむ人はほほえないと思います。しかし、休みをしっかりととることによって、仕事を楽しむゆとりができるのではないのでしょうか。

休まずに仕事をさせることは神様の計画と命令に反しているし、最終的には人間を潰すことになります。今年の夏もしっかりと神様に与えられた祝福を感謝しながらじゅうぶんに楽しんでください。そして、2学期になって学校生活に戻ったときも、週に一日の休みを大切にしようでしょうか。仕事や勉強と休みがバランスよくとれていると、日々の喜びも増すと思います。

チャプレン ベレク スミス

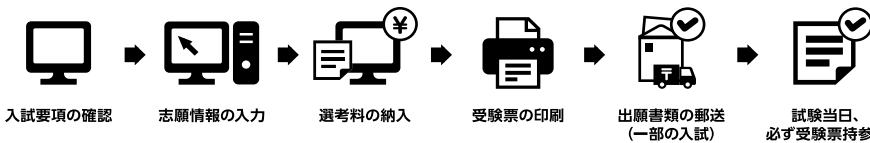
＼ 9月上旬から本校ホームページで要項を掲載予定 /

2018年度入試より

「Web出願」

を始めます

Web出願の流れ



2017年度 学校説明会 9月18日(月・祝)

中学校 1回目 9:30～10:30 2回目 11:00～12:00

高校 1回目 13:00～14:00 2回目 14:30～15:30

2017年度S.P.F.(文化祭) 10月28日(土)・29日(日)

お知らせ

志木駅の南口広場の再整備工事開始に伴い、8月1日から立教学院スクールバスの発着場所が変わります。詳しくは本校のHPでご確認ください。

Campus News Rikkyo Niiza 第75号

編集：立教新座中学校・高等学校

教務・入試広報課

発行：立教新座中学校・高等学校

〒352-8523 埼玉県新座市北野1-2-25

☎048-471-2323(代表)

行事予定 ～中学校～

7/22(土)	オープンキャンパス
25(火)	1年社会科校外学習
8/3(木)	米国サマーキャンプ(～8/15)
17(木)	清里環境ボランティア(～19)
9/5(火)	2学期始業礼拝 宿題試験
16(土)	運動会
30(土)	朝霞地区大会(～10/3)
10/8(日)	英語検定
18(水)	中間試験(～19)
28(土)	S.P.F.(文化祭)(～29)

行事予定 ～高校～

7/22(土)	オープンキャンパス
22(土)	豪州短期留学(～8/13)
30(土)	英国サマースクール(～8/15)
8/17(木)	清里環境ボランティア(～19)
21(月)	榛名ボランティアキャンプ(～24)
9/4(月)	認定試験
5(火)	2学期始業式 宿題試験
30(土)	TOEFL ITP
10/8(日)	英語検定
18(水)	中間試験(～19)
28(土)	S.P.F.(文化祭)(～29)